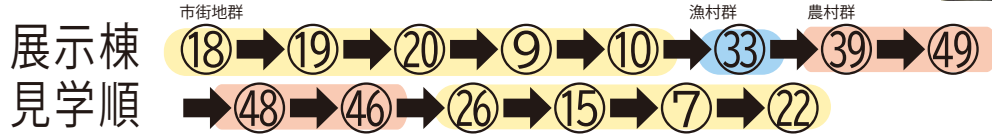


目指せ、 10,000 歩！

目安の
所要時間

60 ~ 90 分



視点

旧札幌停車場から市街地を抜け、漁村群、農村群をゆっくりと、比較的平坦な道を歩きながら村のたてものや風景をめぐるコースです。

総歩行距離は3 km、歩数は6,200 歩ほど、所用時間はおよそ 60 ~ 90 分としています。さあ、開拓の村で“健康さんぽ！”

※歩幅は一步約 50 cm で計算しています。



さて、目の前は開拓の村食堂です！
お食事、軽食、お飲み物を取り揃えておりますので、是非お立ち寄りいただき、村の食事をご賞味ください。

⑱旧来正旅館

外観上の特徴に、屋根に据え付けられた2つの「天水桶」があります。この天水桶は 江戸期以来の旅館建築(旅籠屋)に多く見ることができました。元々は、付近に火災の類焼を防ぐための防火用水桶でした。

⑳旧武井商店酒造部

酒造部の名は、もともと酒造兼呉服太物店であった名残り、1913(大正2)年頃より酒造に専念しました。この建物の奥にある蔵には、現在の北海道内の酒造を紹介しています。

⑩旧開拓使工業局庁舎

北海道で25番目に国の重要文化財として指定を受けた建物です。1877(明治10)年の建築で、白、緑、黄色のハイカラな色彩は創建当時の色を再現しました。

㉑旧田村家北誠館蚕種製造所

絹を吐く蚕の卵「蚕種」を製造していた建物で、現在の浦臼町にありました。開拓の村では、この建物で夏に蚕を飼育しています。

④⑧旧菊田家農家住宅

新潟県から江別市に移住した菊田家が住んだ茅葺き屋根の家です。二階は養蚕に使用したと伝えられています。開拓の村では、この住宅の横でリンゴを栽培しています。

②⑥旧藤原車轆製作所

さて、この看板はなんと読むでしょう? 「諸村轆製作所」ではありません、「諸車轆製作所」です。「諸」の次の漢字は「村」ではなく「車」の草書体(くずし字)で書かれています。

⑦旧有島家住宅

日本近代文学の代表的な作家、有島武郎家族が一時期住んだ借家住宅で、廊下から1階と2階合わせて4つの和室に直接移動できる明治版シェアハウス風住宅といったところでしょうか。

⑲旧三ツ河本そば屋

この看板の3文字は「きそば」と読みます。「きそば」を漢字にすると「生蕎麦」ではなく、「幾楚者」となります。この変化に興味を持った方は、是非「変体仮名」を調べてみてください。

⑨旧小樽新聞社

小樽市の小樽運河沿いに立ち並ぶ石造りの倉庫群は、建物の骨組みを木骨で建てて軟石を貼る「木骨石造構造」です。その仕組みは「旧札幌拓殖倉庫」の中で見ることができます。

③③旧青山家漁家住宅

茨木家、白鳥家と共に、祝津三大ニシン漁家と称された青山家の「元場」である大きな番屋と、米倉や網倉などの倉庫群を含めたほぼすべての建物を移築、復元しています。

④⑨開拓小屋

本州方面から入植した人々が、最初に造った粗末な住まいをイメージしています。ここでは、壁も屋根も茅(ヨシ)を使っています。

④⑥旧樋口家農家住宅

樋口重蔵は、仲間たちと現在の「瑞穂池」を造成して灌漑用水を確保し、水田を耕作しました。開拓の村では、この建物の前に小さな田んぼを設け、明治期に持ち込まれた赤毛種と現代品種を栽培しています。

⑮旧山本理髪店

札幌市中央区円山地区の通称「裏参道」にあった建物です。この建物がどこにあったか、実は窓を見ればわかります! よ〜くみてください! 「円山、円山…」と読めませんか?

②②旧近藤染舗

建物の中にあるこの道具は何だと思えますか? これは槌と砧といって、昔は硬い木綿の布を柔らかくなるまで槌でたたき、染めやすくしていました。

